



そろそろ“山が笑う”と言われる頃になりました。若葉に特有の艶や短い毛が日の光を反射して、明るい緑や朱、茶などの色が混じり合って輝いています。山々が楽しそうに笑っているように見えます。いい季節になりました。皆様いかがお過ごしですか。

先日、新緑の中を天拝山(筑紫野市)から牛頸山(うしくびやま:大野城市)までの縦走をしました。休憩時間を入れて約5時間、21000歩の行程でした。天拝山にはもう1700回も登っていて、今頃なら、どこにどんな花が咲き、どこでどんな鳥が鳴いているかなどが分かるようになりました。でも、そこから尾根伝いの山々はどうなっているのかと大佐野山～黒鉄山～牛頸山を花や鳥、樹木などを観察しながらゆっくりと歩いてみました。またまた新しい出会いや発見がありましたよ。森はいいですね。



なかよし情報210412:投票率38.9%に思う



昨日は福岡県知事選挙でしたが、投票率は過去最低の38.9%でした。コロナ感染を警戒してという事情もあったのかも知れませんが、10人の有権者のうち6名の人が投票していないというこの状況をどう理解すればよいのでしょうか。

今回の知事選では立候補者は2名。主な政党が推薦する元副知事と、共産党が応援する元市議会議員でした。結果は投票前から分かっていたので、このことも投票率を下げた原因かもしれません。

しかし、もっと大きな理由があるのではないのでしょうか？私たちが投票を行うための判断材料が顔写真と候補者が掲げている施策しかないからです。

福岡県の何を変えなければならないのか？それを考えるためには福岡県が他の県と比べてどういう状況にあるのかを知る必要があります。例えば、47都道府県の中で福岡県は①男女平等指数(34位・2010年調査)②学カランキング(正答率26位・2018年)③貧困率(貧困率の高い順番に18位・2015年調査)、④幸福度(42位・2020年)など、いずれにしても全国平均を下回っています。

つまり福岡県は①男女平等が進んでいない。②学力が劣っている。③貧困化が進んでいる。④幸福度が低い等々、喫緊のコロナ対策以外にも取り組むべきことは沢山あることがわかります。

その改善方法は福岡県よりも優れた取り組みを行っている県が沢山ありますので、無い頭で考えるよりは、すでに実施し改善している自治体を真似て実施していけば早いし、効率的ではないでしょうか。お手本になる県があるといことは素晴らしいことです。

私は東日本大震災の後、宮城県を訪れました。宮城県は行政への市民の関心の高い県ですので、行政担当者は透明性の高さが求められます。私が驚いたのは道路工事の看板に工事期間、工事請負業者名などの他に、この工事にいくらの費用(税金)が使われているかが掲示してありました。無駄な税金を使わせない工夫がこのような形で行われていました。

今年は4年に一度の総選挙の年でもあります。各メディアは日本の国が他の先進国と比べて、何がどうなのかを分かりやすく、考えやすくなるような客観的事実を国民に知らせてほしいことです。また、改善の進んでいる事例も紹介してほしいです。国を良くしていくためには、優れた国の真似をするのが一番です。お手本になる国はたくさんあります。(※私はデンマークから多くの知見を得ていますので個人的には随分幸福度が上がっています。)

立候補者や政党が今まで何を言い、どう行動してきたか。また、これから何をどうしていくつもりなのかを、これも分かりやすく比較できる一覧表があれば、私たちはどの候補者、政党に投票すべきかを判断しやすくなります。野次馬的な興味本位的報道ではなく、冷静で客観的で、建設的な議論のベースとなる情報の提供が不可欠ではないかと思えます。

このような情報を私たちが得られるかどうか、私たちの投票に対する関心を高め、投票率も上がり、私たちの声が国政に反映されることになるのではないのでしょうか。